



松の実3年保育

十月は月初めから好天に恵まれ運動会に続く秋三番目のお祭り、松川保育園のおまつりを、3日、4日、5日の3回も楽しむことができました。

この間、保護者皆様には、公共下水道関連工事のため、登降園には大変なご迷惑をおかけしましたが、好天続きのお陰で、当初予定の通り、工事を終了することができました。

ご理解、ご協力いただきまして、心から感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

また十月は、月末引日まで、本年度の入園申込受付期間になります。先日、生まれながらの障がいを持つお子のお母様とおはあ様が相談に見えました。

「入園できるか」と、この子はまこと先生方に相談していると、お母様とおはあ様の思いが、この子が第一でした。私は申しました。

「子どもはひとりひとりもぐもぐ、どの子も可愛がられ、守られ、育ててもらって権利をもつ生まれたまぐもぐの子。おはあさまを育てておられるように、こどもも成長発達する力、まぐもぐひとりひとり違っています。兄弟も違っています。

保育園は四月生まれから翌年三月生まれまで、30日近いひろさのある子どもたちが同じクラスに居ます。から成長発達する曲線がみな異なる。このまぐもぐの個性を大切に。

その中で担任は、こどもひとりひとりが、自分は世界中で一番可愛がられる大事にされていると思いつく、何かあっても守ってくれる先生がいると信じることができるよう保育をする。こどもたちの総てが自分の存在に誇りを持ち、入園として集団の中で生きていく力の基礎を培うのが、松の実保育園の使命だと感じています。

もし、迷惑をかけるとか、苦勞をかけるとかお思いしたらそれが成長の過程に必要な保育そのもの。おはあさま、障がいがあるためではありません。

自分と異なる相手をおもてやり、助け

あえる子ども、初ましあえる子どもは育つ。この目々の保育者が、人間社会でいかに自分たちが生きる、人も生かせる、本物の生きる力を培うことになるのだと信じています。」と。

十月八月は、松の実回創立記念日。松の実の保育者として、理解いただき、支えて下さった保護者皆様と、松の園児と共に迎える創立記念日には、改めて「ありがとうございます」と申し上げます。

こどもたちは一歩一歩、着実に成長の道のりを歩み、おはあさまのまぐもぐが、まぐもぐも親になり、まぐもぐ親になり、まぐもぐ。十月十三日に新築された開園される幼児教室、左スバルでは、いよいよ「ほほ、うめさ〜の憧れと熱意をお受け、運動会以上の自信を持って発表していただけるでしょう。」

こどもが育つ力をあぐまでも信じて、十月。そして、こどもも最高の利益を目指す。保育者として、おはあさま、新しい十月を迎えます。

園長 福田孝子